

教育 子午線

Kyoiku-Shigosen

October, 2012
vol.30



兵庫教育大学



◎教育最前線

これからの学校教育に
求められる
「言語活動の充実」

◎研究レポート
吉水裕也

地域のスケールに応じた
地誌学習の課題発見内容と
カリキュラム開発

◎ワタシのイチオシ
◎うれしの交差点

教育最前線



これからの 学校教育に求められる 「言語活動の充実」



きつ かわ よし のり
吉川芳則

小学校教員養成特別コース教授



学習指導要領が10年ぶりに改訂され、小学校では平成23(2011)年度から、中学校では24年度から新しい教育課程による授業が実施されています(高校は25年度から)。今回の改訂の柱の一つに挙げられたのが、各教科等における「言語活動の充実」です。

「言語活動の充実」とは

言語活動とは、広い意味で「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を指します。新しい学習指導要領の総則には教育課程編成の方針として、次の点が示されました。

▼生きる力をはぐくむ

▼基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させる。そして、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくむ

▼主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努める

これらの教育を行う際に

「言語活動を充実すること」とされています。

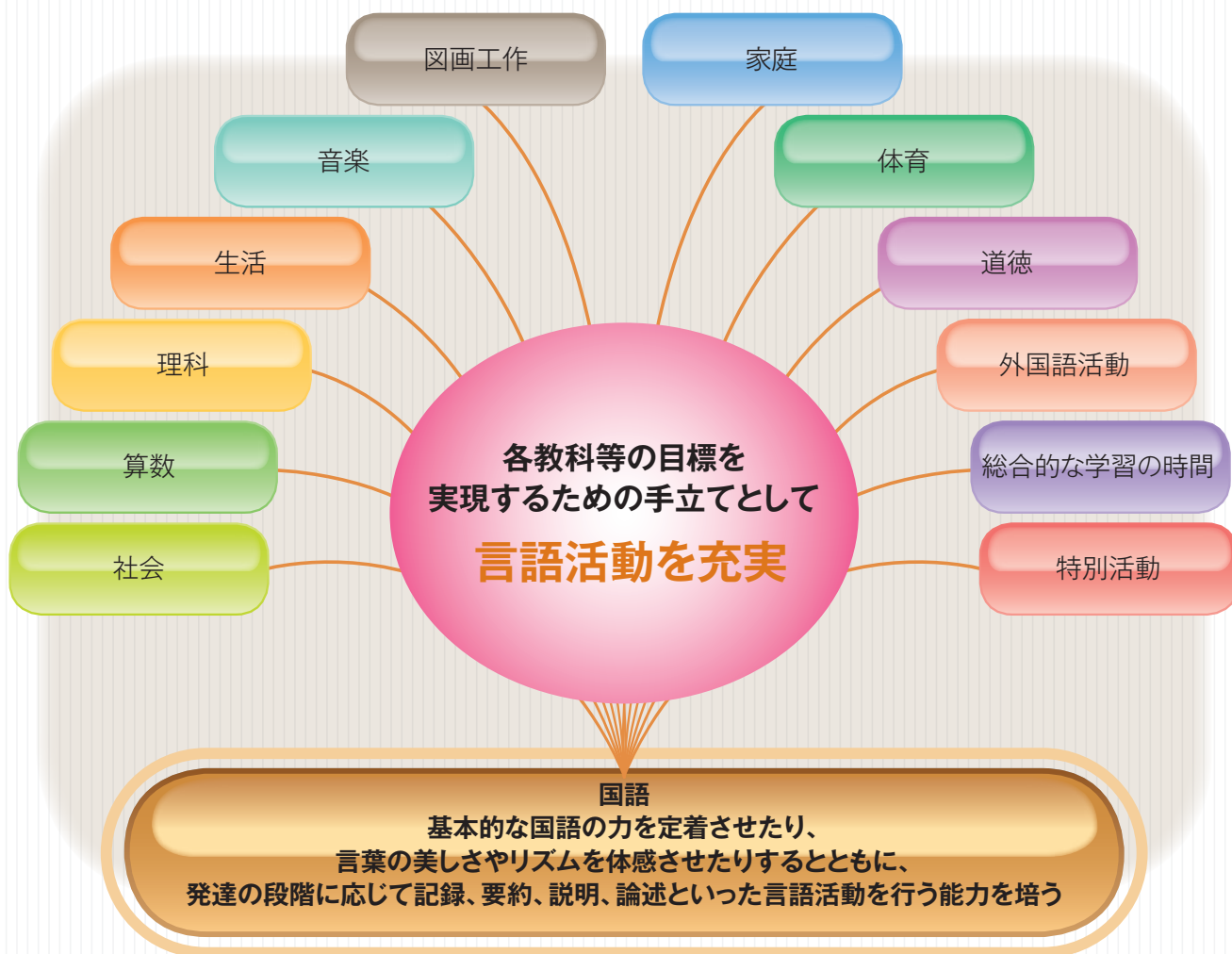
言語活動を重視するようになった要因

学習指導要領の改訂で言語活動の充実を重視するようになった要因として、次の三つが挙げられます。

一つ目は、新しい知識や情報、技術が飛躍的に重要性を増す時代(知識基盤社会)になったことです。変化に対応していくためには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が必要です。このような力は言語活動を通して着実に身に付けていきます。

二つ目は、国内外の学力調査の結果です。OECD(経済協力開発機構)が3年ごとに実施している国際的な学力調査(PISA調査)で、日本の生徒は読解力に課題が見られました。また、文部科学省の全国学力・学習状況調査では記述式問題に弱いという結果が出るなど、いずれも思考力や判断力、

各教科等における言語活動の充実



文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【小学校版】」より

表現力などに課題があることが判明しました。これらの力を育てるためには言語活動を効果的に行う必要があります。

三つ目は、教育基本法が改正され、教育の目指す方向が明確になり、学力についてもはっきりと定められたことです。学習指導要領の教育課程編成の方針は、学校教育法に規定されたことによつて打ち出されたものです。言語活動の充実を図ることで育つ学力が、法の上でも明記されたということになります。

国語科だけでなく 全ての教科で実践を

言語活動の充実を図る上で大切なことは「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を通して、思考力、判断力、表現力などを育むことです。したがつて事柄同士を比較・分類したり、関連付けたりしながら話す、書くといった学習活動が重要となります。

また、国語科だけでなく、全

ての教科等で取り組まなければなりません。例えば、国語科で示されている記録、要約、説明、論述等の言語活動は、社会科や総合的な学習の時間などでも行います。実際、新しい学習指導要領には、「観察、調査、見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の一層の充実を図る」(社会科)、「図形の面積の求め方を言葉、数、式、図を用いて考え、説明する活動」(算数科)などが見られます。

豊かな教育活動に つながっていく

言語活動の充実は、あくまでも各教科等の目標を実現するためのものであり、思考力や判断力、表現力などを身に付けさせるための手段です。しっかりと話し、聞き、書き、読む活動を位置付けることによつて、思慮深い、賢い児童生徒を育てていきたいものです。「言語活動の充実」は「授業の充実」、ひいては「教育活動の充実」につながっていきます。



「壁新聞の発表会」の様子。3人1組でテーマを決め記事を収集。割り付け、見出し、絵や写真、アンケート結果のグラフ化など、分かりやすく伝える工夫をして新聞を作成。内容を発表し合い相互評価をしました



おおえ みよこ
大江実代子さん
明石市立大久保小学校主幹教諭
平成21(2009)年大学院修士課程言語系コース(国語)修了

論理的思考力の育成 「ひらめき」を「考え」に

現

在、明石市立大久保小学校では、ことばを介して思考力を高めるという観点から、「思考力を鍛え、感性を育む」という研究テーマの下、論理的思考力の育成に取り組んでいます。子どもたちが、直感(ひらめいたこと)を筋道立てた一つの考えに導くのが論理的思考力です。論理的に思考するために、子どもたちには思いつきで話したり動いたりするのではなく、「ちょっと待てよ」と自分でストップをかけようとしていきます。このいったん立ち止まって考える時間が、ひらめきをひとまとまりの考えに変換させる時間になります。この場合のひとまとまりの考えとは、根拠や理由が整い、そこから出された考えを指します。

国語科では、物語や説明文を問わず、一つの言葉や文を自分なりの言葉で表す、そしてそれについての自分の考えを持つて集団での話し合いに臨むという学習を繰り返しています。例えば、4年生で学習する「こんぎつね」の最終場面では、ただ「おれなんだよ」と、兵十に知ってほしかったから明くる日も



教育最前線

子どもの 「言語力」 を育む さまざまな 取り組み



えりぐち だいき
江里口大輔
兵庫教育大学附属小学校教諭

「かかわり」の中で 学びを豊かにするために

私

たちは、もの考える時、五感で感じたことを認識・整理する時、またそのような思考を他人に伝える時にことばを使います。子どもたちの思考は、ことばを基に構成されていることがほとんどです。

附属小学校では「かかわり」を大切にしてきました。すなわち、「ひとものこと」との「かかわり」における相互作用の中に、子どもたちが学ぶ意味や価値を見いだそうとしてきました。この相互作用の中で、ことばで表現することを大切にしてきました。なぜなら、考えたこと、感じたことをことばで表現することにより、自分自身で自覚することができ、他者に伝えることにより、共有できるからです。

附属小学校国語部では、これまでイメージを中核に据え、子どもの理解と表現をつなぐ実践を重ねてきました。加えて、イメージとともに「言語感覚」にも着目し、それを磨くことによって、子どもの理解と表現



こめ だ ゆたか
米田豊
授業実践リーダーコース教授

社会科における 言語力の育成 — 評価できる言葉の力を —

新しい学習指導要領では、「言語活動の充実」が改訂の大きなポイントとして取り上げられています。小・中学校の教育現場では、学校を挙げて研究テーマにしているところが多くなっています。「活動あって学びなし」と総合的な学習の時間が批判されて久しいですが、その原因は「汗を流し、楽しく時には感動で心に響く学習なのに、うちの子どもは賢くなっているのだろうか」という保護者の声に代表されるように、学んだことが方向的にしか評価されないことにあります。「言語活動」としないで、「言語力」として子どもに付いた力を評価するように考えれば、学校で賢くなった子どもの姿を示すことができます。

そこで、社会科における言語力を「読取り」「解釈」「説明」「論述」の4つの構造(レベル)で、次のように示せば、子どもの姿が評価できると提案します。

- ①読取り 「資料からあなたは何を読み取れますか」(When, Who, Where, What)
- ②解釈 「資料からあなたはどのようなことが解釈できますか」(How)
- ③説明 「なぜ、このようになっていますか」(Why)
- ④論述 「あなたは、このことについてどのように考えますか」

①から③までは、これまでの社会科の授業で行われてきたことです。最も重要なのは、社会事象に対して「なぜ(Why)」と問い、原因と結果の関係で答える「説明」です。その基盤に「読取り」と「解釈」があります。読取りや解釈の段階で授業を終わらせないで、「説明」の段階にまで高めることが大切です。④の「論述」とは、①②③で習得したことを活用して、社会的な論争問題に対して自分の意見をまとめて論述し、発表することです。

このように社会科における言語力を構造として捉えれば、子どもに付いた力のレベルを評価することができ、次の授業に活かすことができます。

公立小学校の研究実践

行ったのだと思います」というのではなく、そこに根拠を見いだし、「いつもだったら兵十の家の中に入らないのに、その明るく日は兵十の家の中に入って土間にクリを固めて置いています。それは、クリやマツタケを置いているのは自分だと兵十に気付いてほしかったからだと思います」と言うことで、判断に至った経緯(根拠)が明示され、論理的に思考されたことが言語によって具現されたと評価できるのです。このように目に見えない抽象的な「思考」というものを、ことばを介して運用できるようにすることが論理的思考力の育成と考えています。

こうした力を獲得させるためには、単学級ではなく、学校全体で継続して取り組む必要があります。大久保小学校では授業研究はもとより、朝のスピーチや委員会活動など日常生活にも視野を広げています。子どもたちの素直な気持ちやひらめきを大切に、思いや考えとして、確かに相手に伝えることができるようになると願っています。

附属小学校の研究実践

がさらにつながるのではないかと考えています。「言語感覚」を磨くとは、子どもが多種多様なことばを吟味し、自分なりの根拠を持つてことばを使ったり受け止めたりすること、言い換えれば一つ一つのことばにこだわっていくことと考えられます。

つまり、一つ一つのことばにこだわり、言語感覚を磨くことにより、子どもたちの表現力が豊かになり、「ひと・もの・こと」との「かわり」が深まることで、学びが豊かになると考えます。このことは国語科だけでなく、学べることでではなく、他教科・領域の学習においても変わりありません。子どもたちが「かわり」の中で学びを豊かにしていくためにも今、言語感覚、ことばの力が求められていると考えます。



よし みず ひろ や
吉水裕也

授業実践リーダーコース
教授

このページでは日本学術振興会の科学研究費補助金(平成23年度から科学研究費助成事業に改称)を受けた研究を紹介します。科学研究費補助金とは、すべての分野の「学術研究」を格段に発展させることを目的に、独創的・先駆的な研究に対して助成を行うものです。基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究などに分かれており、基盤研究は1人または複数の研究者が共同で行う研究が対象。研究期間は3~5年です。

(平成21~24年度科学研究費補助金・基盤研究に採択)
**地域のスケールに応じた地誌学習の
課題発見内容とカリキュラム開発**

地理の学習をする場合、スケールは重要な概念の一つです。

例えば、「日本の稲作はどこで行われているのか」を考えると、この証拠をどの縮尺の地図で表現するのは悩ましい問題です。マッチ箱くらいの大きさの日本地図に赤色で表現するならば、北海道の東部と北部以外は稲作地域として真っ赤に塗りつぶされることとなります。A4一枚くらいでもほぼ真っ赤に塗りつぶされ、ほとんど同様の結果が出るかもしれません。しかし、国土地理院が発行している5万分の1地形図レベルになると、沖積平野や山間の谷につくられた田の様子が読み取れるため、日本で稲作が行われている所を小地形との関係で論じることができ、2万5000分の1になると、畑や家屋の分布との対比などからもっと細かな違いが読み取れるようになりますし、1万分の1では一筆(区画)ごと

スケール論	分析できる内容
地理的スケール	▶空間の発生・変化のプロセス
マルチ・スケール	▶空間の重層性や階層性 ▶異なったスケール間の関係

の特徴を読み取ることができ、その特徴を捉えようとする際の話しです。しかし、地域は発生・変化するもの、そのため、あるスケールを持った地域が発生・変化するプロセスでは、異なるスケールの地域から受ける政治的影響は見逃せません。地理学や政治学では、異なるスケール間の影響について関心が高まっています。地域の動態を捉えやすいからでしょう。例えば、EUは国家と

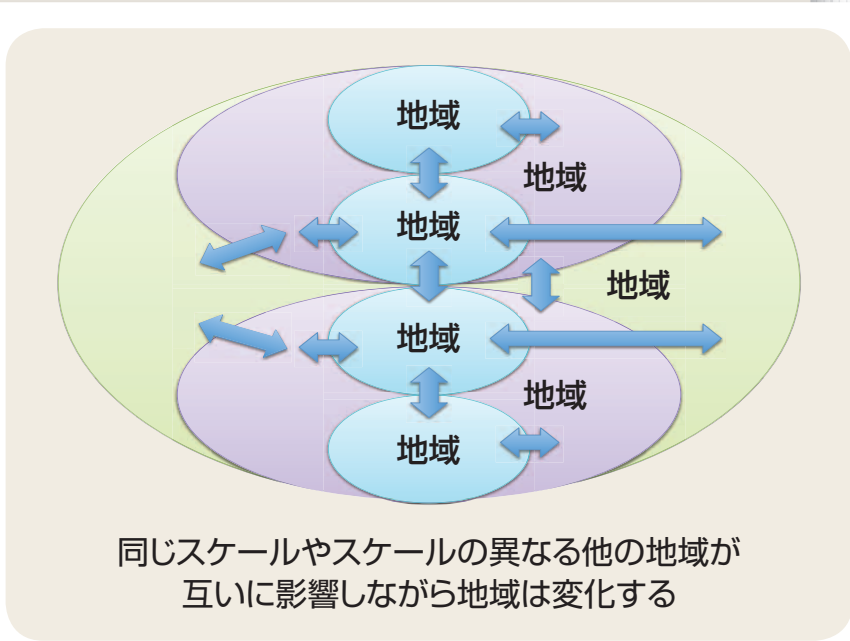
この特徴を読み取ることができ、その特徴を捉えようとする際の話しです。しかし、地域は発生・変化するもの、そのため、あるスケールを持った地域が発生・変化するプロセスでは、異なるスケールの地域から受ける政治的影響は見逃せません。地理学や政治学では、異なるスケール間の影響について関心が高まっています。地域の動態を捉えやすいからでしょう。例えば、EUは国家と

いうスケールを超えた共同体をつくった実験場で、そこに国家というものがどのように影響できるのか、EUから受ける影響によって国家は退場したのかという議論がありました。地域の動態を捉えるには、地域の発生・変化に伴ってスケール間でどのような影響を与え合っているのかというマルチ・スケールのアプローチによる学習内容開発も重要になります。

社会科学は内容教科だと言われます。どのような内容を学習するのが、社会科にとっては重要だということでしょう。これはどのような学習課題を設定するのかという問題に置き換え可能です。スケールの問題を考慮して、どのような学習課題を設定し、その学習課題を生徒が発見・把握する過程を授業に組み込むのか。これは教材研究の重要な一側面です。

私の研究では、地域を発生・変化する動態的なものと捉えています。ある地域が発生・変化する時に、他の地域(例えば、同じスケールの他地域や異なるスケールの地域)からどのような影響を受け、また与えながら発生・変化するのかというプロセスを捉えるには、どのような学習課題を設定する必要があります

社会科学は内容教科だと言われます。どのような内容を学習するのが、社会科にとっては重要だということでしょう。これはどのような学習課題を設定するのかという問題に置き換え可能です。スケールの問題を考慮して、どのような学習課題を設定し、その学習課題を生徒が発見・把握する過程を授業に組み込むのか。これは教材研究の重要な一側面です。



同じスケールやスケールの異なる他の地域が互いに影響しながら地域は変化する

のかを研究しています。また、地域を所与のものとして捉えるスケールの見方(地図学的スケール、方法的スケール)と、地域が発生・変化するもの、このスケールの見方(地理的スケール)をどのように教育課程に組み込んでいけばよいのかを考えています。

将来の夢

ソロリサイタルのほか、教え子たちと神戸の世良美術館でサロンコンサートを開いている。「ピアノの演奏は年齢とともに深まっていきます。でも、最近は暗譜がしんどくて」と苦笑する。将来は自宅をサロンに改装し、若い演奏家たちに発表の場を提供したいという。

母の形見が着たくて

10年前に母親が亡くなり、形見の着物を着たいと一念発起。着付け教室に通い始めたところのめり込んでしまい、2年で師範の資格を取得。看板までもらった。着付けをきっかけに和文文化に開眼。茶道も習い始め、歌舞伎や文楽にも頻りに足を運ぶようになった。



デビュー当時からファン

1970年代の登場時からハローキティが大好き。現在も文房具や小物類など、身の回りはキティちゃんグッズだらけ。最近では学生から旅行のお土産でご当地ストラップをもらうのがうれしらしい。



先生に質問!



繊細な音色にうっとり

宝物はスイスで買ったリュージュ社製のオルゴール。象嵌が施されたふたを開けると、ピカピカの72弁のシリンダーが鎮座。「ピアノの鍵盤に近い6オクターブの音域を持つシリンダーで、複雑なテクスチャと繊細な音色に思わず聴き入ってしまいます」



今夜もほろ酔い

日本酒が大好き。毎晩、お気に入りの輪島塗の猪口で晩酌を嗜んでいる。イチオシの地酒は富山の「立山」と奈良の「春鹿」。どちらも女性に人気のさらりとした口当たりだ。ちなみに猪口は2つつあるが、誰と一緒に飲んでいるかは内緒だとか。



きのしたちよ
木下千代 教授

文化表現系教育コース
[芸術系教育分野(音楽)]

大阪府出身。東京芸術大学音楽学部から同大学大学院修士課程に進む。修了後、奈良文化女子短期大学音楽科助教授などを経て、平成5(1993)年兵庫教育大学助教授に。22(2010)年教授に就く。主にピアノ演奏法について研究している。授業は「鍵盤楽器表現の基礎・応用」「総合芸術表現演習」「ピアノ演習」「初等音楽」などを担当。

Q&A

Q ピアニストである先生の授業は演奏技術に関する内容が中心なのでしょうか。

A 専門的なテクニックも大切ですが、楽曲解釈にウエイトを置いています。例えば、ベートーヴェンが生きた時代背景や様式を知った上で楽曲を捉え直すというもので、洋楽全般に対する教養を高め、学校現場で生かしてほしいと思っています。

Q 今、教育研究で興味を持っていることは。

A 小学校音楽科の学習指導要領にある「音楽づくり」の授業開発ですね。どういう授業をすればいいかわからないという学校現場の声が多いのでモデルケースを研究しています。紙一枚で合奏したり、オノマトペだけで合奏したり、さまざまな楽器で即興的な表現を試みたりというものです。美術の先生と共に音楽、造型、身体表現を組み合わせ、五感を駆使した総合芸術表現の研究にも取り組んでいます。

Q 兵教大に勤務されて20年になりますが、学生たちの学ぶ姿勢に変化はありますか。

A 最近の学生は教職科目や実習時間が増えて忙しいせい、自分の専門分野を深めようという意欲が薄れているように思います。もっとアンテナを広げて、自分のめりこめることを探してほしいです。一見無駄に思えることでも追究していくと視野が開けます。「これだけは!」と胸を張れるものを持つ教員を目指してほしいですね。



もり もと ゆう いち
森本雄一さん

兵庫県立東播工業高等学校教諭

神戸市出身。昭和57(1982)年、兵庫県立高校の理科教員に。平成21(2009)年、大学院修士課程自然系コース(夜間クラス)を修了し、現在は東播工業高校で物理を担当。昨年、加古川市に教員のための研修施設「自然とかがくの学び舎ファラデーラボ」を設立した。



▶昨年3月のファラデーラボの開所式には理科教育関係者ら約50人が参加しました

若手教員向けの研修施設を開き 実験の楽しさを伝えています

工業高校で理科を教える中で、小中学校の理科との連携の重要性を切実に感じ、53歳で大学院夜間クラスに入学しました。修士論文は「なぜ生徒実験をしなければならぬのか」をテーマに、生徒実験の歴史や教育効果について研究しました。

大学院での学びを通して、自分で実験することの大切さを再認識しました。近年、理科の授業時間が縮小されて、学生や若い教員が実験を十分に経験していないことに対して危機感を持っていました。そこで、加古川市郊外に一軒家を購入して、20人ほどが実験できる研修施設「自然とかがくの学び舎ファラデーラボ」を設立。兵教大修了生や退職教員が若い教員に実験、観察を伝授しています。また、大学教員と大学院同窓会員との共同研究として「兵教大学生・院生のための理科に強い教員をめざす実験・観察講習会」も実施しています。今後も後進に実験すること、学ぶことの楽しさを伝えていきたいです。



ぬま たり え
沼田梨絵さん

丹波市立芦田小学校教諭

姫路市出身。平成23(2011)年、学校教育学部学校教育系コースを卒業し、現任校に着任。今年度は2年生を担当している。



▶最近教材を研究する面白さが分かってきました

大学時代の友人は財産 今も励まし合う心強い存在です

教員になって2年目、昨年は初めて暮らす丹波の土地に戸惑うことも多かったのですが、大学の友人たちと連絡を取り合い、悩みを相談しました。みんな、不安や自分の無力さに苦しみながらも頑張っていることが分かり、とても励まされました。

兵教大はゼミやクラブ活動、寮生活などを通して、深い人間関係をつくる機会に恵まれた環境です。在学生の皆さんは、ゼミの研究や採用試験の勉強について、もつと自分の考えを語った方がいいと思います。何熱くなってるの?と思われるのではないかと不安になるかもしれませんが、真剣な話ができる人間関係を築くことは大切なことです。

ゼミやクラブ活動など、自分の周りにいる人たちを大切にしてください。人間関係でぶつかったり、折れたりしながら、人として真摯に向き合うことの大切さを知るのだと思います。私も子どもたちにそんな姿勢を見せていきたいと思っています。

▶同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ 教育実践研究活動等に係る表彰について

7月28日、29日に神戸市で開催した第32回大学院同窓会総会で、平成24(2012)年度「教育実践研究活動等に係る表彰」を行いました。この表彰は、教育実践研究活動等に顕著な成果を挙げ、大学や大学院同窓会の名誉を著しく高めた修了生が対象。今年度は4人を表彰しました。詳しくはHyokyo-netをご覧ください。

た修了生が対象。今年度は4人を表彰しました。詳しくはHyokyo-netをご覧ください。

◎被表彰者(敬称略)

嬉野賞/難波治彦(3期・自然系、岡山県)

奨励賞/池田恩四郎(3期・自然系、愛媛県)

特別賞/吉田廣(1期・教育方法、兵庫県)、山下裕(5期・芸術系、広島県)

こめ たに つかさ
米谷司さん

学校教育学部生活・健康系コース
(保健体育)3年

平成3(1991)年三田市生まれ。22(2010)年に入学。小学4年生でバレーを始め、中学時代は兵庫県選抜の一員として全国大会出場。兵教大では1年生からエースパイカーとして活躍。今年3月、体育会会長に就任した。身長182センチ。



近畿地区国立大学体育大会の結団式では体育系の部員たちを前にあいさつをした



キラリな人
SHINY PERSON

**近いうちに
イベントを開き
体育会の存在を
アピールしたいです**

今

年3月に体育会会長に就任した男子バレーボール部の主将。「体育会がいろいろと活動していたとは、会長になるまで知りませんでした」と苦笑する。会長は代々、保健体育分野の学生が務めており、代替わりの際は会長が後継にふさわしい数人を選び、その中から立候補を募る。前会長から打診された時、「自分自身を変えるチャンスだ」と直感、ただ一人手を挙げた。

「僕は人前で話すことが苦手、相手の目を見られませんでした。会長は人前に立つ機会も多いし、克服できるのではないかと考えたのです」

会長の重要な任務の一つが体育施設の利用調整だ。月1回、体育会24クラブの代表者と体育館やグラウンドの利用日について話し合う。「長期休暇中の利用はジャンケンで決めていましたが、昨年の夏休みにあるクラブが1カ月間、体育館を全く使えなかったの何か手を打たないといけないと思いました」

今年の夏休み前、各クラブに利用日の決め方について、

従来通りジャンケンで決める、平日は体育会が調整し土曜日はジャンケンで決める、全て体育会が調整するという三つを提案。その結果、体育会が全日程を管理することになった。

ほかにも会長の仕事は多い。新入生対象のクラブ紹介や近畿地区国立大学体育大会に向けての結団式では企画・運営を務め、7月には体育会の全役員が参加するグラウンドの草刈りと体育館の清掃で指揮を執った。マイクを前にしての口調もすっかり滑らかになった。

就任から半年がたち、新たな試みへの意欲も芽生えてきた。スポーツイベントを開催し、学内に体育会の存在をアピールしたいと意気込む。「地域の人も参加できる運動会とかがいいのですが、いきなり大それたことはできませんから」と、クラブ対抗の駅伝大会を構想中だ。たとえ小規模でも初のイベントを実現させ、次の代にバトンを渡したいと願う。「年内にはやりたいですね、絶対に」と言って視線を真っすぐ前に向けた。

～第10回(平成22年度)学生生活実態調査報告書から検証～

兵教生の通学手段

学部生は徒歩のみとマイカーで9割強

学生の通学手段は、学部生が「徒歩のみ(47%)」「マイカー(44%)」、大学院生が「マイカー(43%)」「徒歩のみ(32%)」の順となった。前回調査(平成20年度)では、学部生は「マイカー」が「徒歩のみ」を上回ったが、今回で再び逆転したのは、学部生の寄宿舎入居率の増加が影響している。また、これまでの調査と同じく、公共交通機関利用の割合は低い。

通学アクセスに関する要望は、学部生、大学院生共に「現状で満足」が多いものの、「バスの増便」「循環バスの導入」を求める意見も多かった。そこで、今年度から神戸(三宮)と大学を結ぶ「神戸エクスプレス便」を新設するとともに、大学と加東の市街地を結ぶ「カレッジバス(買物バス)」を循環ルートに拡張した「加東ループ便」とするなど、学生の通学や生活の利便性の向上に努めている。

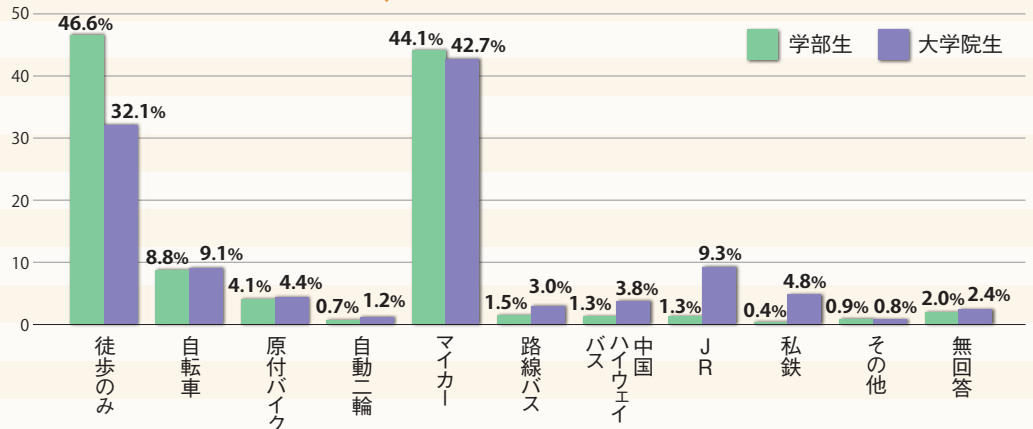
学生の要望に応えたい



ふくだ みつひろ
福田光完
副学長

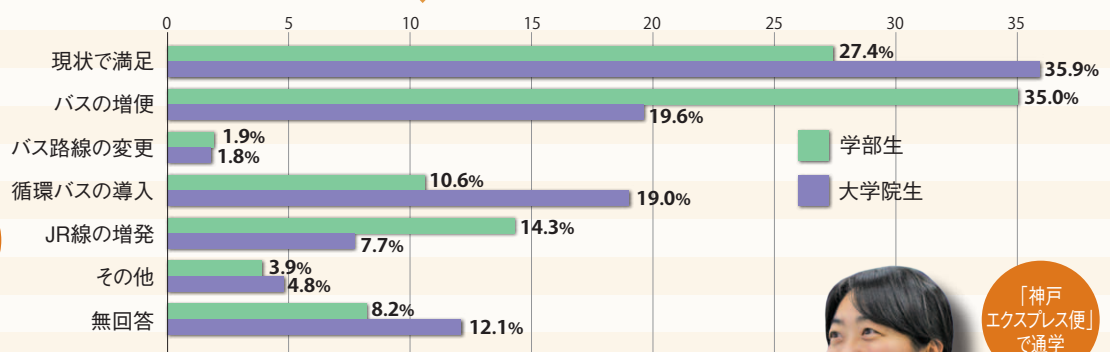
加東キャンパスは自然に囲まれ、学習環境として恵まれている半面、公共交通機関は十分ではありません。マイカーのない学生が食料品や日用品の購入に苦労しているという声が多かったため、昨年度から平日3便のカレッジバス(加東ループ便)が市内を走っています。今春からは神戸方面からの学生の要望に応え、三宮-大学間の通学バスを朝夕走らせています。来年度もバス通学希望の学生数を的確に把握して運行を決めたいと考えています。

通学手段は?



私たち留学生はマイカーを持っていない人が多く、加東ループ便は日常生活になくてはならない存在です。バスがないと、自転車で長い坂道を通って買い物に行かなければなりませんし、交通事故に遭う危険性だってあります。バスのおかげで毎日、楽に買い物ができ、本当に助かっています。今後も重宝させていただきます。

通学アクセスに関する要望について



とう か び
湯佳美さん
大学院修士課程
文化表現系教育コース2年

「加東ループ便」で買い物

直通便なので乗り過ごす心配もなく安心して乗って(寝て?)いられるのが気に入っています。マイカーで通っていたころは必要以上の荷物を持ち、日付が変わっても大学にいましたが、バスに代えてからは荷物も時間の使い方もスマートになりました。バスの一番の魅力は車窓からの眺めです。「日本昔ばなし」に出てきそうな一面に広がる田んぼとかやぶき屋根の家、夕日に映えるつくはら湖と湖水に足を浸すようにそびえる山々。雨の日、大きな窓を額縁代わりに仰ぎ見る帝釈山は、まるで水墨画のような趣があります。一見の価値ありです!



よし だ ゆ き
吉田由貴さん
大学院修士課程
臨床心理学コース2年

「神戸エクスプレス便」で通学

MUSIC

親友との別れを思い出す 胸キュンの一曲です

以来、沖縄テイストが入った軽快なメロディーを奏でる彼らが好きになりました。アルバム「めんそーれ、かりゆし」にはこの曲以外にも心に響く曲がたくさんあるので、一度聴いてみてください。

沖 縄出身のロックバンド、かりゆし58の「オワリはじまり」を初めて聴いたのは、留学生の友人があと数日で帰国するという時でした。テレビから流れてきた「旅立ちの時はいつだって少し怖いけど、これも希望のかたちだっちゃん」と分かっている」という歌詞を耳にした途端、ビビッとくるものがありました。



柳田清弥さん
大学院修士課程
臨床心理学コース2年



かりゆし58「めんそーれ、かりゆし」
発売元:株エルディー・アンド・ケイ
販売元:エイベックス・マーケティング株
2,625円

青山繁晴「ぼくらの祖国」
扶桑社



藤田亮さん
大学院専門職学位課程
学校経営コース1年

学 校でもきちんと習ったことがなく、テレビでもしっかり伝えられることのない視点、それが祖国を愛する姿勢です。しかし、本書を読むと、ごく当たり前の視点であることに気付かされます。世界のどこのどの学校でも「祖国」を真っ先に教えているのに、日本では…著者は「あなたは『祖国』を知っていますか。ぼくは知らなかった。なぜか。日本の学校では、教えないからだ」と言います。教員である前に、日本人がどう生きるべきか、祖国を学ぶことで一つの(至ってシンプルで真実な)答えが見えてくると思います。

学校では教えてくれない
「祖国」について考える機会に

BOOK

MOVIE

青春時代は好きなことに一直線 卓球の楽しさがピンピン伝わります

同 じ高校の卓球部に所属する幼なじみのペコとスマイル。前年度の地区総体でペコは幼なじみのアクマに、スマイルは留学生のチャイナに負けて以来、ペコは卓球場のオババの特訓を受け、スマイルは顧問の小泉の指導の下でひたすら練習に励む。そして2度目の夏、ペコはチャイナに続いて、強敵ドラゴンを破り、決勝でスマイルとぶつかる…。

この映画は私自身の高校時代を思い出させてくれます。挫折しても好きなことに打ち込み続けることは大切だと伝えてくれる、コミカルながらも超熱い魂魄ものです。

南和樹さん
学校教育学部
社会系コース2年



「ピンポン」
アスミック、小学館 ©2002「ピンポン」製作委員会
2,000円

ワタシのイチオシ

心に残る映画、つい口ずさむ音楽、
行きつけのスポットや思い出の冊子。
みんなにも薦めたい私のお気に入りを紹介。

豊後
加東市東実795-1 ☎0795-42-7900
11:30~13:30、17:00~22:00(L.O.21:00)
月曜(祝休日の場合は翌平日)休



村尾歩美さん
学校教育学部
学校心理系コース2年



加 東キャンパスから車で15分足らずの所にある和食のお店です。兵教生の中にも行ったことのある人は多いのではないのでしょうか。

どのメニューもリーズナブルでボリューム満点。味も本当にいいです。私はうみねこ丼がお気に入りです。いつ行っても満足すること間違いありませんが、特に毎週水曜日は定食にデザートが付くのでお得です。ぜひ、友達や家族と行ってみてください。

デザートのサービスがある
水曜日が狙い目です

SPOT

十 附属中学校

兵庫教育大学附属三校園おやじの会

うれしの
交差点

兵庫教育大学と地域の交流ページ

↓気温35度の炎天下。メンバーたちは汗を垂らしながら、トタン屋根を張り替えた

↓メンバーはそろいの黒のTシャツを着用。おやじの背中にはたくましい



父親たちの地域の居場所
イベントや力仕事で子どもをサポート

8

月最後の土曜日、
附属幼稚園・小学

校・中学校に通う子どももの父親たちで結成された「附属三校園おやじの会」のメンバーが附属幼稚園に集まった。この日の目的はウサギ小屋のトタン屋根の張り替え。学校の備品の修繕は同会の活動の柱の一つだ。

「屋根に上がるのは3、4人、あとの人はトタン板を持ち上げたりしてください」。代表の藤田和昌さんの大きな指示だけで、メンバーはそれぞれのポジションに就く。チームワークは抜群だ。

近年、全国的に増えている「おやじの会」とは、幼稚園児や小学生の父親が中心となりPTA活動やそれに準じる活動に取り組む組織で、兵教大附属三校園に発足したのは平成18(2006)年。附属幼稚園のPTA副会長をしていた藤田さんに、名須川知子園長(当時)が話を持ち掛けたのがきっかけだった。「常々、父親たちが参加しやすいPTA活動」

があればなあと思っていたので、二つ返事で引き受けました」

キャンプやスポーツ大会、親子で遊べるイベントの開催のほか、大学祭では模擬店を出している。現在のメンバーは41人。中には自分の子どもが卒園・卒業した後も活動を続ける「OB」もいる。

「附属にはいろんな所から子どもが集まってくるので、父親たちは居住地のコミュニティとのつながりが希薄になりがち。だから、メンバーにとっておやじの会が地域の居場所になっています」と藤田さん。

副代表の徳丸英寿さんは5年前に転勤で大分県から西脇市に移ってきた。「初めての土地で不安でしたが、おやじの会のみんなと親しくなれて、プライベートでも楽しく過ごしています」

同会では月1回、飲み会を開いてメンバー同士の親睦を深めている。募集チラシの「飲み会あり」の言葉に「



↑毎年、大学祭では焼き鳥の模擬店を出している



↑園庭のビオトープに掛かる橋の塗装にいそむ別働隊も



↑メンバーたちは附属幼稚園に集まる前にPTA主催のクリーン活動に参加。附属幼稚園・小学校・中学校の草刈りに精を出した

教材文化資料館平成24年度後期展

「イングリッシュ！—明治からの英語教育—」

明治から昭和にかけての英語の教科書を中心に構成します。日本で英語教育が始まるきっかけとなったフェートン号事件の紹介に始まり、日本初の英和辞典「諺厄利亜語林大成」(復刻)や、近年では指導されなくなりつつある筆記体やローマ字の資料を展示。兵教大が取り組んでいる「小学校英語活動プログラム」についても紹介します。

戦後のラジオ英会話が聴けるリスニングコーナーや筆記体体験コーナーなども設け、子どもから大人まで楽しめます。

↓「Revised Jack and Betty 3rd step」昭和28(1953)年 開隆堂出版



開催期間 / 10月19日(金)~2月27日(木)

場所 / 教材文化資料館(附属図書館内)

平日8:30~22:00、土曜9:00~17:00、日曜・祝休日13:00~17:00

※開館時間の変更や臨時休館する場合があるので、教材文化資料館のホームページなどでご確認ください

☎兵庫教育大学教材文化資料館 ☎0795・44・2362

兵庫教育大学教職員表彰

4月、兵庫教育大学の発展に多大なる貢献をした者について新たな規程を設け、加治佐哲也学長から表彰を行いました。



↑被表彰者と加治佐学長ら役職員

◎被表彰者

- ▶東日本大震災の心のケア支援に係る臨床心理士グループ(富永良喜教授(代表)、市井雅哉教授、海野千畝子准教授)
- ▶庭瀬敬右教授(世界一硬いダイヤモンドを生成する新たな手法の発見)
- ▶前芝武史准教授(第43回日展第三科特選)

第32回大学院同窓会兵庫大会を開催

7月28日、29日、大学院同窓会兵庫大会が神戸市内で開催され、22都府県の大学院修了者・在学者176人と大学関係者など合わせて226人が参加した。今回は「学びへの原点回帰—兵庫教育大学大学院発我々の学びを全国に届けよう—」をテーマに、教育実践研究活動等表彰、実践研究誌「教育の先達」創刊号の披露、実践発表、田辺真人園田学園女子大学名誉教授による「平清盛と神戸」と題した記念講演などが行われた。懇親会では、井戸敏三兵庫県知事から修了者、卒業者が県内の教育現場で活躍していることに対する感謝とさらなる期待を込めたあいさつがあり、その後は同窓会員が旧交を温める姿があらこちらで見られた。



↑カメラに収まる修了生(10~33期)と加治佐学長、来賓

附属幼稚園 + 附属小学校

↓附属幼稚園の田んぼにもち米を育て、園のもちつき大会で使っている。左から徳丸さん、藤田さん、清水さん



心引かれて入会した人も多いという。「入ってすぐのメンバーも飲み会で一気に打ち解けます」と徳丸さんは顔をほころばせる。

また、メンバーの中には大学院時代に修士論文でおよしの会を取り上げ、現在は附属幼稚園に勤務する清水憲志さんもある。「父親が主体的活動は交流の輪が広がりがやすいのが特徴です。母親中心のPTA活動に父親が加わることは少ないですが、おやじの会の活動には奥さんや子どもも付いてき

やすい。そこから年齢の異なる子どもたちの交流や、家族ぐるみの付き合いが育まれています」

太陽が高度を上げ、強烈な日差しが肌を突き刺す。屋根を半分張り替えたところで休憩。メンバーたちは差し入れのアイスクャンディーを頬張る。「この暑さはたまらんなあ」と愚痴をこぼしつつも、その表情はどこか楽しげだ。子どもの笑顔のために、おやじたちはその存在意義を大いに発揮し続ける。



↑5月には人気テレビ番組「逃走中」をまねたイベントを開催し、附属小学校の児童約200人が参加。メンバーがハンターになって子どもたちを追い掛けた



ひろ おか とおる
廣岡徹

学校経営コース教授

日本の防災教育は阪神・淡路大震災で大きく変わったといわれますが、昨年の東日本大震災によって見直されている部分はあるのでしょうか。

兵

兵庫県は阪神・淡路大震災の教訓の下、「知／自然災害に対する知識と理解」「技／防災リテラシーの育成」「心／人としての在り方生き方の探求」の三つの領域で取り組む「新たな防災教育」を全国に発信しました。

現在も、基本的にこの考え方で変わらないものの、東日本大震災によってさらなる検証が求められるようになりました。それを整理すると次のようになります。

- ① 最大(最悪)を想定
 - ② 地域(学校)の状況に応じた対策
 - ③ 具体的活動につながる学び
 - ④ 地域と連携した取組
- まず、自分たちの学校の地勢的条件を検証し、最も大きな被害が想定される災害を防災訓練・教育の中心としな



ければなりません。地震ならば岩盤の固さで被害の程度は変わりますし、校舎の耐震性も防災上の大きな要素の一つです。最近の集中豪雨型災害も当然、視野に入れる必要があります。

- ① 想定にとられない
 - ② どんな場合でも最善を尽くす
 - ③ 率先して避難する
- たとえ下校中であっても子

どもの避難行動を子ども自身の意志と判断に委ねるのは、教員にとって勇気のいることです。しかし、防災教育・安全教育の目的は「子どもたちに自分自身の命を守るための能力を身に付けさせる」ことです。すなわち、釜石市の「防災は文化」と考える防災教育こそ、これからの時代に求められているといえます。

自らの命を守ることでできる子どもは、周りの人たちに対して手を差し伸べる力も身に付けられるでしょう。

キャンパストピックス

CAMPUS TOPICS

渥美茂明教授が
兵庫県功労者表彰
理科教育の振興に尽力



渥美茂明教授(認識形成系教育コース[自然系教育分野(理科)])が、平成24年兵庫県功労者(教育功労)に表彰された。この表彰は、県内の教育振興に顕著な実績を挙げ、広く県民の模範となるべき者をたたえるもの。渥美教授は長年、植物生理学の研究と教育に取り組んでおり、特に小学校理科の教材開発、中高生への教育活動、理科教員の研修、分子生物学への理解を推進する教育活動などが評価された。

藤原司教授が
2011年度ジャフィー論文賞
(理論部門)を受賞

藤原司教授(認識形成系教育コース[自然系教育分野(数学)])が論文「指数型加法過程に対する最小エントロピーマルチンゲール測度について」で、日本金融・証券計量・工学会の「2011年度ジャフィー論文賞(理論部門)」を受賞した。同賞は金融資産価値や実際の金融的意思決定に関わる優秀な論文に与えられるもので、藤原教授は「私の論文は純粋に数学的なものですが、数学以外の学会から評価されたのはありがたいことです」と語った。



成瀬敏郎名誉教授が
日本第四紀学会の
学術賞を受賞



成瀬敏郎名誉教授が平成24年度日本第四紀学会学術賞を受賞した。同学会は、地球史における現代(約260万年前～現代)の自然、環境、人類などを研究する目的で昭和31(1956)年に設立。成瀬名誉教授が25年間にわたって取り組んできた研究「風成堆積物の体系的な研究と第四紀古気候への貢献」は、同学会と第四紀学の発展に大きく貢献した学術業績と認められた。



「大学改革実行プラン」 と兵庫教育大学

文部科学省の「大学改革実行プラン」が6月に発表され、今年度後半から実施されます。その中で、国立大学はそれぞれのミッションと改革の方向性を明確化し、それに関するエビデンス(成果)を提示することが求められます。

前号のこの稿で取り上げた「教員養成修士レベル化」(8月に中央教育審議会答申として正式に提言された)と大学改革実行プランは本学に大きな変革を迫っています。これらの政策に対応し、本学のミッションと存在価値を今後とも堅持していくためには、これまでの実績と現有の資源をもとに二つの機能を創り、展開することが必要であると考えています。

一つは教員養成の高度化(修士レベル化)を、大学院の教員養成・研修に実績と資源を有する本学が中心となって、近辺の大学や県・市教育委員会と密接に連携・協働して遂行することです。かなり規模の大きいものになると予想されます。大学院における初任者研修の取り込みについて、すでに兵庫県教育委員会と協議を始めています。また、兵庫県内の大学、教育委員会と連携・協働するシステム構築の具体計画を、参加する公私立大学、教育委員会と協力して作成し、今年度から5年間の文科省「大学間連携GP」に採択されました。

教員養成の修士レベル化は教員全体の「底上げ」がねらいであって、すべての教員が対象であり、法制化されれば最終的にはすべての大学・大学院で実施されることとなります。そうなると本学は、単なる教員養成大学・大学院の一つにすぎなくなり、全国の学校のリーダーを育成するという本学のミッションは果たせなくなってしまいます。おそらく、現職教員が一般免許状取得のために大学院に入学する場合は、勤務を続けながら夜間や長期休業中に履修する形態が主になるでしょうから、本学の2年間フルタイムの指導法の蓄積や資源も生かせないことになります。

ミッションを果たし、蓄積・資源を生かすには、もう一つの機能を創り、全国展開することが必要です。これは、学校教育の各分野のより専門性の高い、より職位の高いリーダー(「スーパーリーダー」)を、全国各地の教育委員会等と強力で連携して養成することです。そのようなニーズをもつ教育委員会は少なくないと考えています。教員養成修士レベル化は学校教育の全分野・教科が対象となるでしょうが、スーパーリーダー養成は、本学の資源・能力と教育委員会のニーズのある分野・教科に限られるでしょう。たとえば、「上級校長」「特別支援教育スーパーバイザー」「カリキュラム・スーパーバイザー」などです。すでに実質的にそれを行っているプログラムもありますし、準備を始めているコースもあります。博士課程修了者も教職大学院等の教員になることから、ここに位置づけられます。

大学改革実行プランでは、大学間の連携と統廃合が本格的に検討されることになっています。本学が単体で存続するには、この二つの機能のような、教師教育において量的・質的に特段の役割を果たすことが条件になると考えています。

かじさてつや
学長 加治佐哲也

兵庫教育大学からの お知らせ



平成25年度 大学院学校教育研究科学生募集(11月選抜)

修士課程 ▶ 募集人員87人

◆人間発達教育専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
幼年教育コース	昼間クラス	3人
	夜間クラス	若干人
学校心理・発達健康教育コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	5人
臨床心理学コース	昼間クラス	10人
	夜間クラス	10人
◆特別支援教育専攻		
障害科学コース		5人
特別支援教育コーディネーターコース		3人
◆教育内容・方法開発専攻		
認識形成系教育コース	社会系教育分野	昼間クラス 10人 夜間クラス 若干人
	自然系教育分野(数学、理科)	昼間クラス 6人 夜間クラス 若干人
文化表現系教育コース	言語系教育分野(国語、英語)	昼間クラス 10人 夜間クラス 若干人
	芸術系教育分野(音楽、美術)	昼間クラス 7人 夜間クラス 若干人
行動開発系教育コース	スポーツ健康系教育分野(保健体育)	昼間クラス 8人
	応用生活系教育分野(技術・家庭、工業、情報)	夜間クラス 若干人

専門職学位課程(教職大学院) ▶ 募集人員58人

◆教育実践高度化専攻		
学校経営コース	昼間クラス	11人
	夜間クラス	若干人
授業実践開発コース	昼間クラス	22人
	夜間クラス	若干人
生徒指導実践開発コース	昼間クラス	15人
	夜間クラス	若干人
小学校教員養成特別コース		10人

※昼間クラスと夜間クラスのあるコースは昼夜開講制です。昼間クラスは加東キャンパス、夜間クラスは主に神戸サテライト(神戸市中央区)で開講します(昼間と夜間の区別がないコースは昼間クラスのみです)

◎出願期間 10月11日⑥～19日⑤(必着) ◎試験日 11月17日④(筆記・口述)

◎合格者の発表 11月30日⑤10:00 ⑥入試課 ⑧ 0795-44-2067

★3月選抜の募集人員は12月3日⑥にホームページで公表します

平成25年度 園児・児童・生徒募集

附属幼稚園

◎募集人員

3年保育(3歳児)40人

2年保育(4歳児)20人

※25(2013)年4月1日時点での年齢

◎出願期間 10月29日⑥～11月2日⑤

◎選考結果発表、抽選日 12月1日④

⑥附属小学校事務室 ⑧ 0795-40-2218

附属小学校・中学校

◎公示日 11月1日④

⑥附属小学校事務室 ⑧ 0795-40-2218

⑥附属中学校事務室 ⑧ 0795-40-2224

第31回大学祭(嬉望祭)

今年のテーマは「ちゃーがんじゅう～元気があればなんでもできる～」。「ちゃーがんじゅう」とは、沖縄の言葉で「とても元気」「いつも健康体」という意味。兵教生の「元気」を地域に発信し、大学生活や地域交流の一層の活性化を目指そうという思いを込めています。模擬店

⑥=問い合わせ先 ⑧=申し込み先

やクラブ発表をはじめ、東日本大震災復興募金企画、芸能人のステージやバンド演奏など盛りだくさんの内容です。

◎開催日 11月10日④、11日⑥

◎場所 加東キャンパス

⑥ 学生支援課

⑧ 0795-44-2050 ⑧ 0795-44-2049

⑩ office-gakusei-t@hyogo-u.ac.jp

平成24年度 全国市区町村教育長セミナー

教育行政の地方分権化が進む中、市区町村教育長に求められる能力の育成と情報交換の場の提供を目的に開催します。

◎開催日 12月14日⑤～16日⑥

◎場所 東京大学山上会館、赤門総合研究棟(東京都文京区)

◎対象 全国市区町村の教育長

◎定員 50人

◎参加費 2万円

◎申込期限 10月19日⑤

⑥ 企画課

⑧ 0795-44-2156 ⑧ 0795-44-2009

⑩ pro-gyosei@hyogo-u.ac.jp

附属中学校研究発表会

研究テーマ「主体的に学びを深める生徒の育成(2年次)―教科の特質をふまえた質の高い課題の設定―」

◎開催日 11月9日⑤

◎場所 附属中学校

◎内容 基調提案、公開授業、研究授業・授業研究会、パネルディスカッション

⑥ 附属中学校(担当:大山)

⑧ 0795-40-2222 ⑧ 0795-40-2225

http://www.hyogo-u.ac.jp/middle

附属幼稚園研究発表会

研究テーマ「子どもの育ちにとって意味ある環境とは―子どもの思いを読み取りながら遊びの環境を考える―」

◎日時 1月26日④9:00～16:00

◎場所 附属幼稚園

◎内容 保育公開、研究協議

⑥ 附属幼稚園(担当:白石)

⑧ 0795-40-2227 ⑧ 0795-40-2228

⑩ kinder@hyogo-u.ac.jp

http://www.hyogo-u.ac.jp/kinder

附属小学校研究発表会

研究テーマ「『自己を形づくる』学校の構築(4年次)」

◎開催日 2月1日⑤

◎場所 附属小学校

◎内容 授業公開、講演会、分科会

⑥ 附属小学校(担当:佐々)

⑧ 0795-40-2216 ⑧ 0795-40-2219

⑩ element@hyogo-u.ac.jp

http://www.hyogo-u.ac.jp/element

編集後記

★今号の「教育最前線」で取り上げた「言語活動の充実」は、昨今の教育界で重要なキーワードとされています。「言語活動の充実」とは何なのか、それによって何がどうなるのか、という素朴な問いに答える形で記事を書いていただきました。現場の2人の先生には実際の取り組みを紹介していただき、また、研究者の立場から「言語力」の育成についても記事を執筆していただきました。「言語活動」というものが少しでも理解されたならば幸いです★「データで見える兵教生」では、学生生活実態調査から「通学」の実情を取り上げました。学部生で「徒歩のみ」と「マイカー」を合わせて9割以上という、兵教大の特徴が如実に浮かび上がりました。(くす)
※バックナンバーは兵庫教育大学ホームページをご覧ください。

◎あなたの声を聞かせてください

「教育子午線」では、読者の皆さまの声を生かした誌面づくりをめざしています。はがきかメールでご意見、ご感想を寄せていただいた方には、オリジナルのポストカードまたはシャープペンシルを進呈します。

●あて先:〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

兵庫教育大学企画課広報・社会連携事務室

⑧ 0795-44-2334

⑧ 0795-44-2009

⑩ office-renkei-r

@hyogo-u.ac.jp

October, 2012
vol. 30

教育
子午線
Kyoiku-Shigosen

第30号 2012年10月発行

発行/国立大学法人

兵庫教育大学 大学広報室

http://www.hyogo-u.ac.jp

編集協力/㈱神戸新聞総合印刷

兵庫教育大学
携帯サイト

入試情報は
携帯でもチェック
できます。

